



T-time

帝塚山学園広報誌

2019/July

第6号

2019年7月12日発行

帝塚山大学大学院・帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園・帝塚山2歳児教育



つながる帝塚山学園



世界のリーダーポジションを担う人へ

Take On the Next Generation !

子どもたちが担う未来は、世界がそのステージ
帝塚山学園で出会い、つながり、互いに高め合いながら
多くのことを学び成長し、世界の扉を開ける
学園で過ごすかけがえのない時が未来を築く礎となり
やがて世界のリーダーポジションを担う人へと・・・





学校法人 帝塚山学園 理事長

吉川 勝久

2年後に迎える創立80周年と その先へ

「令和」の「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という万葉集からの意味を受け、令和元年という記念すべき今年、帝塚山学園の歴史を振り返ってみました。「令和」には、学園教育の根本理念である「人間性を養う」「よい人間をつくる」「よい人柄をつくる」「よい品性を培う」と通じるものがあるように思います。

学園70年史の草創期、揺籃期、拡充期等を繰り、建学の精神、根本理念、帝塚山教育7項目ができた背景、経緯等を見直してみますと、先輩方が今まで培ってこられた帝塚山学園のよさや持ち味を学

園の経営を進めていく上で、改めて確認し、さらに磨きをかけていこうと意を決したところです。

今年度は、学園創立80周年の令和3年度を最終年度とした第4次中期計画の後半が始まる年度であります。折り返しの重要な年でありますので、改元は学園にとっても計画のギアを入れ替えるのに良いタイミングでもあると思います。

学園創立80周年への抱負

第4次中期計画では、計画の3つの柱として、「教育内容の質の向上」「組織力の強化」「財政基盤の強化」を掲げています。

「教育内容の質の向上」については、幼稚園から高等学校までを対象とした学校評価において外部からの評価も高く、教育・保育内容が充実し、高等学校の大学進学実績も年々伸びています。大学においては、就職率が高い水準で推移しており、外部団体が実施する大学ランキングにおいて、「面倒見の良い大学」の上位にランクされていますので、今後も一層の工夫と努力が求められるところであります。また、「帝塚山プラットフォームの構築による学際的「奈良学」研究の推進」が文部科学省の大学研究ブランディング事業に採択されるなど、その実績が高く評価され始めました。

「組織力の強化」については、大学において、経済学部、経営学部の学部学科

令和につなぐ『誇りと志』

令和元年という記念すべき年、学園のよさや持ち味を再確認するとともに、2年後に迎える学園創立80周年とその先に向けて、吉川勝久理事長にその決意を聞いた。



の改編や教育学部を新設したことで、学生募集も順調に推移したことや、総合学園としての強みを活かすため、教育連携を強化する施策を積み重ねてきたことにより、教職員の意識に一体感が生まれ、組織が強くなってきていることを実感しています。

「財政基盤の強化」については、大学はじめ学校園毎の増収、支出の削減計画もそれぞれのスキームを確実に進めたことにより、改善効果が出てきました。

今後も「教育内容の質の向上」と「組織力の強化」をキーワードに学園全体の連携を深めることで、令和3年度の80周年には、学園経営の基礎である「財政基盤の強化」を図り、「帝塚山学園の教育を通じて、変化する時代に選ばれ続ける総合学園」の道筋を築いていきます。」意

志あるところ道あり (Where there is a will, there is a way.)」であります。

これからの学園の教育連携

総合学園として、各学校園間の連携は、それぞれの中期計画の行動計画に具体的に掲げており、同一敷地内にある利点も生かしながら進めています。年々、学園のブランド力も高まってきており、幼稚園、小学校から帝塚山に入っておかなければ、という保護者の方が多くなったことを受け、昨年、小学校から中学校への内部進学推薦制度の仕組みを教育連携室が中心となり、小学校、中学校とともに作り上げました。制度改正となる今年度、保護者の方にもご理解いただけるものと思っています。高等学校から帝塚山大学への進学を増やすため、学部再編を行った経済経営学部、教育学部をはじめ、大学各学部のレベルアップに力を入れていくとともに、「面倒見の良い大学」という評価を大切にして、就職、出口実績を高めていきたいと考えています。

保護者、帝塚山ファミリーの皆様へのメッセージ

第4次中期計画で、それぞれの学校園の重点目標を次のように掲げて具体的な施策に取り組んでいます。

幼稚園は、生きる力の基礎と学びの基礎を身につける。

小学校は、人間力の基礎作りと21世紀型スキルを身につける。

中学校高等学校は、人間力の育成と個々の進路を実現する。

大学は、自分に合った職業に就いて地域・社会に貢献する人材となる。

教職員は、何事にも園児・児童・生徒・学生ファーストの姿勢でなければならぬと機会をみては言っています。学園の草創の時代から語り継がれてきた『子供や若い人達は学園の宝』、そして、「根っこを鍛える」、「社会に有為な人材を育成する」を反芻して、成長した姿でそれぞれの学校園から送り出すことが、選ばれ続ける帝塚山学園の道です。駅に直結した学園前の幼稚園、小学校、中学校・高等学校、大学3学部のキャンパスは利便性や安全面において関西随一であります。2歳児から大人までが行き交う一つの社会を成すキャンパスです。

帝塚山学園に2代、3代、4代に亘って貴重な子ども、青春の時代を当学園に託してくださった帝塚山ファミリーの皆様、同窓会の皆様、在校生の保護者の皆様、これからも、お子様、お孫様を安心して帝塚山学園にお預け、お送りいただきますようお願い申し上げます。

大帝塚山ファミリーが令和の時代も大きく発展し続けていくよう教職員一同精進してまいりますので、今後共、よろしくご指導、ご支援のほどお願い申し上げます。



『一生の仲間と出会える、 ぬくもりのある学校でありたい』

帝塚山小学校校長 野村 至 弘

今年4月、歴史と伝統ある帝塚山小学校第9代校長として、
野村至弘校長が就任した。
子どもへの愛情に溢れる教育者、人間味のある人格者として、
学園内でも評価の高い、
野村校長に目指す小学校教育について訊いた。

令和元年、就任しての思いは。

このたび、歴史ある帝塚山小学校校長を拝命いたしました。光栄に思うと同時に責任の重さを感じております。帝塚山小学校、ひいては帝塚山学園のさらなる発展に貢献できますよう、一層励んでいく所存です。心引き締めて精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

帝塚山小学校の木造校舎は、ぬくもりのある校舎と言われ、とても評判がよく、校舎と同じように、温かいぬくもりのある学校にしていきたいと思っています。また、校長として、子どもたちが悩み迷ったときや何か嬉しいことがあったとき、気軽に話してくれる

存在になっていきたいと思っています。

私は、毎朝30分ほど校門に立って登校してくる児童たちに朝の挨拶を交わし、「挨拶礼儀」を指導しています。子どもたちは皆、明るい笑顔と大きな声で「おはようございます」と挨拶をしてくれます。卒業後、中学生、高校生になっても忘れず、人としての「優しさ」を大事にしてほしいと思います。また、休み時間などには、子ども

たちに校長室を開放し、子どもたちとの絆を深めたいと思っています。幼稚園から大学までを帝塚山学園で過ごすことで、15年以上の付き合いが生まれます。幼少期を共に過ごすことで励まし合える一生の仲間へと関係性が深まります。そんな得難い経験ができることも帝塚山学園ならではの魅力だと思

います。

帝塚山小学校教育の継承は。

小学校には、学校内外に誇れる伝統や教育方針がたくさんあります。教育方針としまして、「根っこを鍛える」を引き継ぎ、これからの時代を子どもたちがしなやかに生き抜いていけるよう、主体性を身に付けるとともに、将来において求められる能力を伸ばす教育に取り組んでまいります。

具体的には、柱となる三項目を実施したいと考えております。まず、「考える子どもを育てる」です。読書時間の確保、算数の時間の冒頭5分に行う四則計算の反復練習、そして連絡帳や調べ学習、自学ノートといったオリジナルなツールで、読む力・書く力・計



算する力を伸ばし、万物の基礎となる考える力を高めます。

二つ目は「心を磨き共感力を高める」です。子どもたちの道徳心を養う種々の活動を行います。加えて、伝統文化に接する機会を創出することで、子どもたちの豊かな感性を刺激し、他人を思いやる心の育成に努めます。そして、最後は「本物にふれ可能性を広げる」です。臨海学舎やスキー教室、林間学舎に加え、工場見学や地元奈良の町調査などを実際に体験することで、子どもたちの無限の可能性を広げる取組を進めてまいります。

今年度の重点目標としては。

教育方針にプラスし、注力していきたいのが子どもたちのプレゼンター

野村新校長へ

『校長という新しいフィールドで!』

学校法人帝塚山学園 学園長 富岡 将人



小学校校長へのご就任、誠におめでとうございます。前校長のもとで長く教頭先生として活躍していただいた野村先生が、これから打ち出していくであろう「新校長らしさ」を思うと、期待と楽しみでいっぱいです。優しいお人柄を生かし、どんどん新しい発想で実践くださればと思います。

現在の課題としては、少子化の問題に加え、来年度から本格実施される新学習指導要領への対応、また、卒業後の進路について、多様化する保護者の皆様のニーズなどをどのように吸い上げていくかといったことでしょう。

保護者の皆様からご要望をうかがうには、どんな小さなご不安でも口に出していただける深い信頼関係づくりが何よりも大切です。野村校長は、4月から「校長室だより」を保護者の皆様に向けて発行していると聞き、少し安心しております。少子化問題については帝塚山小学校の魅力を内外に発信し、また、新学習指導要領に関しては入念な準備が必要ですから、引き続き取り組んでいただきたいと思います。

内部進学推薦制度については、新制度としてすでに昨年に改善できていますので、引き続き、新制度のよさを伝え、常に子どもファーストの視点で制度を熟したものにしていってほしいと思います。

「根っこを鍛える」というキャッチに、どのように新味を出していくのか、小学校のトップとして、野村校長には思い切ったリーダーシップを発揮し、一方、自己研鑽にも励んでいただけたらと思います。

教育を取り巻く流れを読み取り、保護者の皆様の声に耳をしっかりと傾け、教職員の協力を得て帝塚山小学校の方向性を打ち出すサイクルをうまく循環させて、より魅力的な帝塚山小学校教育に尽力いただきたいと思います。

児童の未来のため、保護者の皆様のため、共に全力で取り組んでいきましょう。

多様な教育ニーズに応えるには。

保護者の皆様からのご要望は、多岐にわたっています。高等学校では、偏差値の高い国公立・私立大学への入学

シヨン能力の強化です。課題、あるいは興味をもった事柄について調べ、その情報を基に自分の意見をまとめて他に発信していける力を育成したいと思っています。具体的には、「お知らせ」という学習形態です。自分の考えた内容をプレゼンテーションをするという学習をしっかり練り上げていきたいと思っています。クラスの取組から広く世界に向けての発信力を身に付けていくことを課題とし、学校の重点目標として取り組んでいきたいと思っています。

を指し、進学校としての役割を期待される一方、小学校・中学校ではできるだけいろいろな経験をさせたいという方も多くいらっしゃいます。お陰さまで、帝塚山中学校・高等学校は高い評価をいただいておりますが、そんな中学校で、さらに力を伸ばしてもらえように、小学校では基礎学力はもちろん、ご紹介してきました3つの柱で人間力を鍛えることを徹底して行っていくと考えています。また、内部進学推薦制度の改善に努めてまいりました。保護者の皆様にもお子様にとっていい方向となり、満足くださる改革になると思っています。「内部進学制度はこういういい点があり、子どもへの負担軽減となりますよ」、そして何

保護者の皆様へ。

保護者の皆様との繋がりを一層深める一環として、7月に「ホームカミン

よりも「内部の進学でいい仲間が見つかる、素晴らしい仲間になれるよ!」と伝えていきたいと思っています。

帝塚山幼稚園との連携においては、小学校にはきれいな芝生もありますので、もっと施設を活用いただいて、これまで以上に交流を深めてまいりたいと考えています。また、中学校へ進学しても、あいさつや礼儀、マナー、「ありがとうございます」がきちんと言えるなど、人としての優しさや温かさを引き継いで成長してほしいと願っています。

グデー」を初開催しようと考えています。恒例の花火大会の日に合わせて帝塚山小学校を卒業して20年、40年が経過した皆様（卒業20年生、40年生、3世代のクラス会）をお招きし、学園でクラス会をしていただきたいと思います。

保護者の皆様には、お子様を安心して託していただいていることに感謝申し上げ、大切なお子様の力を引き出すためにも、今後も保護者様との接点を増やし、その信頼にお応えできるよう、教職員一同より良い教育環境の実現に向けて邁進してまいります。

今後共、どうぞよろしくお願い申し上げます。



地域とつながる

帝塚山大学現代生活学部こども学科 × 明日香幼稚園

こども学科の学生が明日香幼稚園を訪れ、子どもたちと初めて出会いました。学生らは担当教員と何度もディスカッションを重ね当日を迎えたようです。園児らに絵本の読み聞かせをしたり一緒におやつを食べたりして楽しみました。また、パラバルーンでは学生と園児らがタイミングを合わせ上下させながら回転し、コミュニケーションをとりながら体いっぱい楽しみました。



教

つ

育

な

連

が

携

る





学生が自分の意見を発表した後のディスカッション



法学部法学科 3 回生 小西裕子さん
(奈良県立郡山高等学校出身)

人の心に寄り添える 警察官になりたい

小さい頃から正義感が強く、警察官となって人や社会の役に立つことはもちろん、事件を解決して、困っている人の心を救いたいと思ったことも志望理由の一つです。

本学の警察官実務講座では、現職警察官から生の声を聴くことができます。また、松岡先生の授業では、採用試験に出題される問題をもとに授業が進められるので、試験本番でとても役立ちます。警察官は私が思っている以上に厳しい仕事だと思いますが、多くの人と関わりながら、相手の状況や心に寄り添い、柔軟に対応できる警察官を目指します。



法学部法学科 松岡幸司客員教授

<プロフィール>

奈良県警出身。警察署長や警察学校長の経歴を生かし、警察官を目指す学生を教育、指導。



未来の社会とつながる

帝塚山大学法学部法学科



社会で役立つコミュニケーション能力

授業では、ある課題を与えて学生に発表してもらった後、学生同士でディスカッションし、最後に私がアドバイスします。このような形式の授業を通して、人の意見を聞き共感しながらも、自分の意見を主張できるコミュニケーション能力を身に付けてほしいと考えています。

「警察官になりたい」という夢を、夢だけに終わらせず、努力して実現していくことが大切です。そのためのサポートは惜しみません。



英語でつながる

帝塚山幼稚園 English Time

帝塚山小学校英語科主任、森本敦子先生によるイングリッシュタイム。英語に慣れ親しんで楽しむことをねらいに、身の回りにある単語や数を数えることなど、日常耳にしたことのある英語を取り入れ、園児の発達段階に合わせて進められています。レッスンで取り組まれているのは、カリキュラムにある内容。年小クラスから積み上げられているので、園児は1年毎にぐんと成長しています。森本先生は、「どこに行っても、異国文化に興味をもつことで視野が広がり、様々なことを学ぶこと



につながります。今後、多様化する時代に求められるグローバルな人材の根っこを育てる、鍛える、伸ばす、その前の種まきが大切だと思っています。」と話されました。



異年齢同士がつながる

帝塚山小学校 × 帝塚山幼稚園 「幼小交流会」

恒例となった連携行事のひとつ「幼小交流会」では、午前中のひとときを1年生組の児童と年長たんば組が、1年月組の児童と年長こすす組が共に過ごしました。1年生教室での工作に続いて、体育館へは手をつないで入場し歌を披露しました。そして、盛り上がったゲーム大会やじゃんけん大会・・・小学校では最年少の1年生はこの日ばかりは素敵なお兄さん、お姉さんとなり、年長児を優しくいたわり、リードしようと頑張っていました。もうすっかり「てづかやまっ子」です。先生方は「園児たちには小学校って楽しいなと思ってもらえたら」、「1年生はいつも低学年でしてもらっていることが多いので、少しお兄さん、お姉さんとなってしてあげられる楽しさを感じてもらえれば」と話されました。



多文化とつながる

帝塚山小学校英語国内留学体験

6月5日から始まった英語国内留学体験プログラム。2日目は5年生のプログラムです。開講式では、国際交流部児童による英語でのスピーチの後、世界の様々な地域からお越しくださった講師の先生方の自己紹介と出身国のプレゼンテーションがありました。児童は、まるで海外の教室にいるかのような雰囲気です。授業は進みます。学習内容は、3,4年生で扱うものより、当然ながらアカデミックに使われ、英語も高度なものです。

午後からのテーマは「課題解決学習」。児童らは元気に先生たちの部屋を訪れ、英語でやり取りをしながら、ミッションをクリア、学習のゴールを目指します。広大な芝生が続くレイクフォレストでの体験プログラム、子どもたちが大人になる頃には、世界はもっと身近になり、国際化が加速的に進んでいくことでしょう。帝塚山小学校の子どもたちがこの体験を生かし、世界に堂々と羽ばたき、活躍してくれることを楽しみにしています。





海外交流校とつながる

帝塚山中学校高等学校 × シンガポールACJC校



シンガポールにある Anglo-Chinese Junior College 校 (以下ACJCと表記) と交流30周年を記念して6月10日交流会が行われました。

交流1日目ACJCの生徒さんは、茶道、書道、お琴を三つのグループに分かれて日本文化体験をしました。本校生徒は、お茶のお作法のお手本を。書道では、うちに名前を日本語で筆での指導を。また、お琴の演奏ではACJCの生徒らと一緒に弦を弾き、お互いが楽しく交流を深めることができた1日でした。

6月11日、2日目の交流では、橿原文化会館で“Harmony” Concertと題して、本校、吹奏楽部、弦楽部の演奏、コーラス部と中高保護者有志による合唱、そしてACJCの生徒による演奏、合唱などが披露されました。記念セレモニーのプレゼント交換の際、贈られた絵画が池辺校長直筆の作品だと紹介されると会場が歓声に包まれました。



笑顔でつながる

帝塚山幼稚園いちご狩り

喜蔵庵(きぞうあん=多機能型事務所)では、奈良県特産の古都華(ことか)や、章姫(あきひめ)おいCベリー、紅ほっぺの4種類のいちごをビニールハウスで水耕栽培されています。

帝塚山幼稚園では3年前から、地域の方々とのつながりを深め、自然に触れながら働くことの大切さを知るため、「いちご狩り」を続けています。今年は4月22日に年長組、25日に年中組、5月8日に年少組に分かれて実施しました。園児らはビニールハウスの中で、いちごの摘み方を教わり、自分の好きないちごを摘み、とても美味しそうに口に運んで楽しそうでした。帰り際には、お世話になった方々に「ありがとうございました」と大きな声でお礼を言って喜蔵庵を後にしました。



ガンバル卒業生の
生のお届けします

interview 01

藤原 ひかりさん

Fujiwara Hikari

- 小学校教諭
- 泉佐野市立中央小学校勤務／4年学級担任
- 大阪府立佐野高等学校卒業

INTERVIEWS

夢をかなえた先輩たちの声



授業以外の学びを意識することも大切です！

「先生になると授業以外にやることが沢山あります。大学では授業での学びはもちろんですが、スクールサポーターやボランティア活動などには積極的に参加し、実習の際には先生方が授業以外に何をされているかを意識して見るようにすると力がぐんと身に付きます」と話してくれた藤原ひかりさん。

初めての学級担任で、試行錯誤しながらも、熱い思いを胸に子どもたちのために頑張っている姿がとても印象的でした。

interview 02

戸田 大輔さん

Toda Daisuke

- 小学校教諭
- 京都市立伏見南浜小学校勤務／2年学級担任
- 同志社香里高校卒業



帝塚山大学の授業は最上級です！

小学校の先生になりたいくて、同志社香里高校から帝塚山大学現代生活学部こども学科(現教育学部)への進学を選びました。先生方のお陰で京都市の採用試験に現役合格ができ、新任として2年学級担任としてスタートを切ることになりました。「帝塚山大学で学んだことを最大限、現場に生かしたいと思っています。他には絶対に負けません。」と力強く語る戸田大輔さん。

きょうは、「観察名人になろう！」と題する授業。子どもたちは、お花やうさぎを絵に描き、教室に戻って感想を書き、「タブレット」を使い発表。「タブレットでの発表は、大学の講義で「ほめあいふせん」を受けた際、わかりやすく理解できたことを生かしています。」と常に、子どもたちの目線で話されていて、愛情に溢れる授業をされていました。先生としてのその姿勢から一歩も二歩も抜け出されている頼もしさを感じました。





interview 03

新子 直希さん

Atarashi Naoki

- 小学校教諭
- 葛城市立新庄小学校勤務／2年学級担任
- 奈良県立橿原高等学校卒業

子どもたちの成長に、
日々感動しています！

「字がきれいに書けるようになる、時間内に給食が食べられるようになる、忘れ物が減るなど、あらゆる面で子どもの成長に日々、感動しています」と話してくれた新子直希さん。

子どもたち一人一人と真剣に向き合っているからこそ感動できるのだなと。とても爽やかで素敵な先生でした。



話を聞くことの大切さは、
大人も子ども同じなんですね！

矢田丘陵の雄大な自然に囲まれた一角に存立する歴史ある矢田小学校。近くには、紫陽花で有名な矢田寺などがある。そんな小学校に新任として赴任した浅野明日香さん。4年生の学級担任である。

5限目の道徳の時間に訪問させていただきました。「聞かせて。君の声を」を資料に、いのちの尊さやつながりを大切にこれまで取り組んでこられてきたことが、子どもたちの成長にしっかりつながっているようでした。自分からの考えを発信できるだけでなく、人の考えをしっかりと聞こうとさせておられるときの浅野さんの優しい眼差しや表情がとても素敵でした。



interview 04

浅野 明日香さん

Asano Asuka

- 小学校教諭
- 大和郡山市立矢田小学校勤務／4年学級担任
- 奈良県立生駒高等学校卒業





interview 05

衣川 杏奈さん

Kinugawa Anna

- 幼稚園教諭・保育士
- 生駒市立中保育園勤務
- 奈良県立奈良北高等学校卒業



子どもたちが楽しめる保育を！

「子どもたちが楽しめるようにいつも意識しています。おもちゃの出し方一つとっても興味の持ち方は変わるんです。また、ふれあい遊びの時間ではお互いの温もりを感じるようにしています」と話す衣川杏奈さん。

園児を見る温かく優しい目と、先輩先生を見る真剣な眼差しの違いに、仕事に取り組む意識の高さが垣間見えました。



interview 06

神田 優香さん

Kanda Yuka

- 幼稚園教諭・保育士
- 富貴の森こども園勤務
- 三重県立名張西高等学校卒業

自分の心を強く持とうと！

年長組加配担当として早や2か月、少し自分に何ができるかが見えてきました。子どもたちは、お友達に気持ちが上手く伝えられなかったりする場面では、その子の気持ちを代弁して伝えることもあります。なるべく子ども自身で自分の気持ちを伝えられるように声を掛けています。自分の気持ちを上手く伝えられた時、「上手に言えたね」と言葉を掛けると、ニコッと自分に笑顔を向けてくれ、「日常の何気ないことですが、すごくうれしかったです。」と話す神田さん。

一人一人成長のスピードが異なる子どもたちに、いつも前向きで素敵な笑顔でかわる神田さんに園児たちも、すごく好感を持っていると感じました。





interview 07

赤松 華帆さん

Akamatsu Kaho

- 幼稚園教諭・保育士
- 大和高田市立高田西保育所勤務
- 奈良県立五條高等学校卒業

諦め切れない夢なら、
叶えるしかない！

「もしかすると、私が公立の幼保に合格したのが大学では最後かもしれないんです。」と笑顔で話してくれた赤松さん。「私は幼稚園や保育所の先生になりたいくて、五條市から毎日休まず大学に通いました。採用試験で教職支援センターに通ううちに、何度、自分の夢を諦めかけたことかわかりません。でも、後輩の皆さん、特に挫折したり何度か壁にぶちあたったとしても、大学には背中を押してくださる心強い先生方がおられます。諦め切れないなら、反対に最後の最後まで、自分の夢をその手でつかんでください。」と、メッセージを送ってくれました。

やりがいをもって頑張る赤松さんに、将来は、きっと素敵な先生になれるのだろうと元気をもらった気がした取材でした。



interview 08

中川 初音さん

Nakagawa Hatsune

- 幼稚園教諭・保育士
- 広陵町立広陵北かぐやこども園勤務
- 奈良県立平城高等学校卒業



「即戦力養成講座」で身に付けた
自信を現場に生かす！

「私は、PR文を書くのが苦手だし、人前で話すことは特に苦手だったんです。人前では、緊張して泣きそうになるんです。だから、何回も何回も「即戦力養成講座」に通いました。PR文も一緒に考えてもらったり、お陰で人前で話すことにも慣れることができました。」と照れくさそうに話してくれた中川さん。子どもたちの前では、本当に優しい眼差しで、愛情に満ち溢れて魅力的な先生。子どもたちと元気に接し、取材にも明るく答えてくれました。ありがとうございました。



教育学部こども教育学科新設の記事が、奈良新聞に掲載されました。



4年間学ぶことを解説したロードマップを記したリーフレット



帝塚山アーカイブズ

シリーズ3回目となる帝塚山アーカイブズ。幼稚園、小学校に続き、中学校高等学校の歴史を2回に分けて紹介します。第1回目は、帝塚山中学校高等学校の象徴、円型校舎を中心に紹介します。

昭和16年の地鎮祭、昭和23年の航空撮影で見ることができる山深い学園前の地が、帝塚山学園を中心に開発され、いくつもの円型校舎の建設とともに、住宅や道路、学園前駅周辺の整備へと、まさに学園がリードしてきた歴史です。



<昭和16年8月 校舎地鎮祭の様子>



当時の学園前
キャンパス

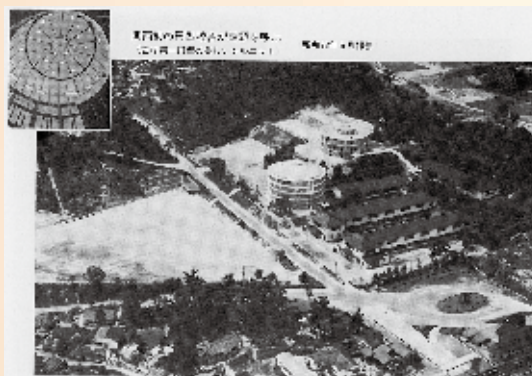
<昭和23年 航空撮影>



<昭和26年 中高校舎全景>



<昭和31年 中高職員室と幼稚園園舎>



<昭和33年 学園全景>



<昭和36年 20周年を祝し全員集合して記念撮影>



<昭和44年 学園祭の様子>



<昭和47年 高校3年生6号館に集合>

中高同窓会
だより



帝塚山学園同窓会 関東支部総会・懇親会開催

6月8日、新宿京王プラザホテル42階「富士の間」で、帝塚山学園同窓会関東支部総会・懇親会が盛大に行われました。

当日は、ゲストスピーカーに桐畑治先生をお迎えしました。桐畑先生は美しい御着物をおめしになり奥様、お嬢様とご出席くださいました。

桐畑先生の前稿を元NHKアナウンサー39期生の吉川かのさんが代読くださいました。卒業生の胸を打ち、あちこちの席で涙される方も見受けられました。

本部より今年も綿谷会長にご出席いただき、開会のご挨拶

をいただきました。

その後、関東支部支部長が、須賀田支部長から高島新支部長へ交代される事が承認され、総会は無事終了しました。

いよいよ懇親会の始まりです。錦織前会長に乾杯のご発声いただきました。懐かしい昔話に花が咲きます。今回初参加の皆様が壇上で、楽しくスピーチくださり会場を盛り上げていただきました。楽しい時間はすぐに過ぎていきます。

恒例の校歌合唱、茜雲合唱の後、初代支部長富山さんの中締めでお開きとなりました。



ギター・マンドリンクラブOB・OG会総会、懇親会を開催

4月20日、中高食堂で本年度のギター・マンドリンクラブOB・OG会総会、懇親会を開催されました。今回は、創部初期の23期から今春に卒業した73期まで29人が懐かしい母校食堂に集合しました。

創部以来長らくご指導いただいた金治耕造先生（退職）や現在、顧問をされている小林奈央子先生もご参加くださいました。

来年度は創部50周年の年であり、記念演奏会には、多くの皆さんがご来場くださることをお待ちしております。



高校13期生 同窓会開催

3月13日、高校13期生の同窓会が奈良市のあやめ館で開催されました。今回は、昨年の喜寿を祝う会に続いての開催です。27人が集まり、唯一、恩師斉藤誠先生がお元気で参加いただきました。

木造校舎や珍しかった円型校舎での高校時代に戻った懐古話は尽きず、時の経つのを忘れるほどでありました。再会を誓い散会しました。



短大同窓会総会

「輪をひろげましょう！」

4月21日、学園前キャンパス18号館において短大同窓会総会が開催され、80名の会員がご出席されました。

会長挨拶では、スライド投影により同窓会目的と事業内容、本部並びに支部役員の役割と活動状況について写真を交えながら紹介。「会員相互のコミュニケーションにより輪を広げ、同窓会活動、総会、支部親睦会への多くの皆様のご参加を！」と呼びかけられました。

また、「おもひでトークカフェ」では、元短大教授・大学副学長・大学名誉教授の中山伸先生による当時が生きたときとよみがえるエピソード満載のご講演や、旧学生寮の写真展示が行われ、参加者は青春時代にタイムスリップするひと時を楽しめました。

TOPICS 幼稚園 Kindergarten

06



幼稚園では集団での様々な体験を通して
しっかりした根っこを育てています



修了式
卒園式



3月14日、卒園式。塚本園長から卒園証書を渡された園児たちは、晴れて小学生に…(写真右)。3月7日、平成最後の2歳児教育修了式がリズム室で行われました。塚本園長のお話をきちんと座って聞いていました。(写真左)



入会式
入園式

4月12日、入園式が行われ、43名の園児が入園しました。塚本園長は、式辞の中で「おはようございますと元気にあいさつしてくださいね」と(写真右)。5月11日、2歳児教育の入会式。塚本園長は、「どうぞ1年間、園生活を楽しみながら安心してお預けください」と話しました。終了後、全員で撮影しました(写真左)。

ミニ運動会



6月1日、「春の親子でミニ運動会」が小学校体育館で実施されました。園児たちは、広い体育館で玉入れなどをして、楽しいひと時を過ごしました。

交通安全



奈良西警察署と奈良市役所の方をお招きし、踏切や横断歩道の渡り方などをご指導いただきました。園児たちは真剣にお話を聞き入って、積極的に質問の手を挙げていました。

親子で植物を
育てる会



色々な植物の名前とその特徴、蝶などの生態を親子で学ぶ会が開催されました。総勢33組の親子が自然とのふれあいを楽しみながらの学びとなりました。

年長礼法



伝統文化に触れ、和室での美しい所作や掛け軸の意味を学ぶ園児たち。真剣にお稽古に取り組む姿にたくましく成長している姿がうかがえました。

親子遠足



年少組は二月堂周辺での遊び、年中組は大仏殿を見学、年長組は若草山頂上まで登りました。親子で手をつないで歩く姿は本当に楽しそうで、笑顔が溢れていました。

プール



6月24日、待ちに待った楽しみのプールが始まりました！水のかけあいっこをしたり、ワニやカエルになって散歩をしたり、色々な遊びをして大喜びです♪

食育



食物栄養学科の学生が、旬の食材を使った献立を考え園児に給食を用意しました。園児からは質問も飛び出し、食への興味を深める教育連携となりました。

入学式



4月10日、入学式が行われ、新しい制服を着た新入生は、名前を呼ばれ、壇上に上りました。野村校長の式辞に続き、6年生から歓迎の言葉が贈られました。

卒業式



3月12日、卒業式が行われました。卒業生は、それぞれの想いを胸に秘め、保護者の方々や在校生、教職員に見守られ、堂々と次のステージへ向かいます。

給食
カレー



収穫したじゃがいもと玉ねぎは、給食メニューのカレーの食材として使われます。自分たちで収穫した材料で作ったカレーは特別な昼食となりました。

林間学舎



6年生は、6月18日から3泊4日の林間学舎を「乗鞍方面」で過ごしました。トレッキングや雪渓での尻スキーなどの体験を通して多くのことを楽しみながら学びました。

じゃがいも
玉ねぎ収穫



6月12日、5年生が、帝塚山大学のサークル「てづかFarm」の学生らと帝塚山幼稚園、小学校との交流で育ったじゃがいもと玉ねぎを楽しみながら収穫しました。

外部講師
出張授業



6月17日、6年生が、外部講師として財務省近畿財務局奈良財務事務所の方々から指導を受け、「日本村の予算を作ろう～日本が100人の村だったら～」をテーマに活発にグループ討議しました。

将来豊かな
果実を実らせるために
子どもたちの根っこを鍛えます



りそな
授業



6月26日、3年生は、りそな銀行の方々を外部講師にお招きし、お金について、正しい知識を身に付け、銀行の社会的役割や金融活動の仕組みなど、大切なことをたくさん学びました。

自由な校風と日々の努力を
支える豊かな学習環境のもとで
一人一人を大切に育てます



中学
入学式



4月9日、午前、新入生351名が中学校に入学しました。池辺校長は式辞の中で、「遥かかなたを見ようせず、目の前にはっきり見えるものをしっかり実行すること」また、「前向きに自分から実行できるようプラス思考で」と話しました。

高校
入学式



4月9日、午後、高等学校入学式が挙行され、345名の新入生が入学しました。池辺校長は式辞の中で、「失敗を恐れず挑戦し続けること」「人と比べるのではなく、努力していれば、可能性は無限に広がること」「心と身体の健康を第一に元気で生きること」と話しました。



文化祭



4月25日・26日、中学校・高等学校の学園祭が開催されました。改元にちなみ、学園祭テーマは「時間旅行」。幼い頃を振り返ってほしい、自分が生まれるはるか前に思いをはせてその新鮮さを味わってもらいたい、そんな願いが込められたテーマです。

高校生が中心となって、4か月以上前から準備を行うところが伝統。中学生や保護者の方々が催しを楽しむ様子を嬉しそうに見ながら、てきぱきと仕事をする高校生に話を聞いてみました。「中学生の時は、高校生の皆さんに楽しませてもらいました。次は私たちが後輩を楽しませてあげたい」と。

先輩の姿から学び、主体的に行動し、受け継がれたつながりが成長を促します。学園祭の一コマにも、総合学園だからこそ可能な異年齢交流の強み、中学校高等学校間のつながりを感じた学園祭でした。



中学
卒業式



3月19日、第72回中学校卒業式が帝塚山学園講堂にて挙行され、340名が中学校を卒業しました。池辺校長は式辞の中で、「卒業という節目に学べることへの感謝と、自己と周りをしあわせにすることに学ぶことを決心し、一日一日を大切に、努力を積み重ねてください。」と述べました。

高校
卒業式



2月15日、第71回帝塚山高等学校卒業式が挙行され、第73期生315名に卒業証書がわたされました。池辺校長からは「すべての人は何らかの必要とされる存在であることを忘れないでください。」と卒業生に向けての言葉が贈られました。



陸上部



第72回奈良県高等学校陸上競技対抗選手権大会、4×100mリレーで、見事優勝した選手は、顧問の林先生から「謙虚で、感謝し、支え合って」と激励を受けました。1走・泉川文乃さん(高3)、2走・玉井理子さん(高3)、3走・可児愛友里さん(高1)、4走・小原夢美さん(高2)は、「諦めずに頑張れば努力は報われる」「楽しくやることで成長できる」「敵わないと思っていた強豪添上高校に勝って優勝したことが嬉しい」と、優勝の喜びを語ってくれました。

hawaii
ミリラニ校



5月10日、ミリラニ高等学校(ハワイ州)の生徒が訪問され、琴部、書道部、茶道部の生徒らが日本文化を紹介しました。ホームステイ先として受け入れた生徒の一人山本龍昇さん(高2)は、「文化が違えば、考えることや、行動も異なると思っていたが、留学生たちも同じなんだなぁ」と感想を聞かせてくれました。

地域連携・産官学連携を通じて
生きた知識を身につけるための実学、
「プロジェクト型学習」を行っています

あかね祭

大学卒業式と
大学院修了式

入学式



大学卒業式と大学院修了式が3月20日、大阪市のグランキューブ大阪で行われ、6学部708名、修了生は大学院3研究科17名が巣立ちました。

文学部の藤岡奈海さんが「大学での知識と経験を糧に未来を切り開く力に変えていきたい」と謝辞を述べました。



4月1日、第56回大学入学式並びに第31回大学院入学式を学園講堂にて行われ、学部生 985名、大学院博士前期課程16名、博士後期課程2名が入学しました。



4月21日奈良・学園前キャンパスであかね祭が開催され、今年で第13回目を迎えました。初夏のような陽気の中、メインステージでは学生企画による「T1グランプリ」、「のど自慢大会」、人気タレントによる「お笑いライブ」などが開催され、はとの広場は歓声と熱気に包まれました。

短大ホーム
カミングデー



例年、大学あかね祭と同日に開催する「帝塚山短期大学ホームカミングデー」で、『短期大学の先生方・学生たちの思い出』と題し、中山 伸名誉教授による特別講演が行われました。当時が生き生きとよみがえるエピソード満載のお話や、旧学生寮の写真展示もあり、参加した卒業生の皆さんは、青春時代にタイムスリップするひと時を楽しみました。

サーバー
構築



シスコネットワーキングアカデミーのインストラクターでもある経済経営学部の日置慎治教授が講師となり、八尋博士教諭の引率で、帝塚山中学校・高等学校の生徒を対象とした「サーバー構築入門講座(全5回)」を学園内連携の取組として開催しました。現代のネット社会はどんな仕組みで動いているのかについて、サーバー構築やWebアプリプログラミングの実習を通して生徒たちは理解を深めました。

小学校
インターン
シップ



現代生活学部こども学科の応用演習Ⅰ(木曜3限開講)は、帝塚山小学校における体験実習を通して、教職に就くために必要な基礎的知識や姿勢を身につけることを目的とした授業です。6月6日、学生らは、次年度の教育実習に向けて、小学校の各学年で行われている学習活動にインターンシップとして参加しました。

デザイン
フェスタ



3月23日と3月24日の2日間、奈良県山添村の旧西豊小学校で、山添村と帝塚山大学現代生活学部居住空間デザイン学科学部長の辻川ひとみ教授、小菅瑠香准教授、岡田治子講師の指導の下、現4年生の古田真衣さん、能島優仁さん、村田天楽さん、安田昌広さんが奈良県の後援を受けて企画したデザインフェスタが開催されました。旧西豊小学校は平成14年に閉校した小学校です。学生たちはこれまで、この校舎の再活用方法について、様々な現地調査や提案、役所の方たちとの打合せを行ってきました。

今回はプロジェクトのキックオフとして、両日にわたる学科の出張卒業

研究展と23日に親子ワークショップ、24日に村と大学のアンダー40交流会が開催されました。大人から子どもまで多くの方々にお越しいただき、両日共、大変充実したイベントになりました。

出張卒業研究展では、展示された建築図面や模型、プロダクトデザイン、論文にたくさんの興味をもってくださいました。また親子ワークショップでは、午前の「えのぐで遊ぼう」、午後の「つみきで遊ぼう」、いずれも居住空間デザイン学科の教員が子どもたちにデザインで遊ぶ授業を行い、大変盛り上がりしました。



T-time 第6号 テーマ「つながる」編集を終えて

お茶を飲み、何気ない会話を交わし、ほっとできる貴重な時間「ティータイム」。このような時間を大切に、学園に関わる人たちに親しまれ、長く愛されることを願って名付けられた学園広報誌「T-time」。2017年7月の創刊から、早3年目を迎えました。今回、第6号のテーマは「つながる」。学園内が連携を通してつながる、地域の人たちとつながる。年齢を越えてつながる。多様な文化や人々とつながる。そして、未来に向かって社会とつながる。

つながりが生む人と人との交わりやコミュニケーション、心遣い、優しさ、他への思いやりなどをお伝えしたたく、制作してまいりました。

導入のイメージ画の撮影に、まず登場してくれたのは、帝塚山2歳児教育に通う男児、撮影スタジオに向かうため、元気にお母さんの手を引き、弾むように階段を駆け登ってきました。

スタジオには、見慣れぬスーツ姿の大人がいっぱい。スタジオに入るやいなや男の子の表情も次第に曇りがちに…。バシャバシャと連写するシャッター音、ピカッと光るストロボ照明、ついに、「あーん!」。目には大粒の涙が…とう



とう泣き出してしまいました。ぬいぐるみで気を引く園長先生、次はスタッフのお菓子作戦。一向に泣き止む気配はなく20分が過ぎてしまいました。周りの大人とお母さまも7人が大奮闘!

最後に男の子を笑顔にしてくれたのは、やはり同幼稚園年中クラスの女児でした。そっと手を繋いでくれた瞬間に愛らしい笑顔に。ほっとした1コマでした。

数々の取材や撮影、インタビューに快くご協力くださいました皆様方に、心より感謝申し上げます。

学園広報誌「T-time」は、卒業生の皆様や帝塚山ファミリーの皆様、学園の今をお伝えし、ご愛読いただけるよう、これからも精一杯努めてまいります。今後共、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。編集を終えての御礼とさせていただきます。



「T-time」(第6号)は、デザイン監修を、帝塚山大学現代生活学部居住空間デザイン学科学部長辻川ひとみ教授、表紙デザインを、同学科大里浩二准教授の協力を得て、作成しています。

T-time 第6号表紙
帝塚山中学高等学校イメージ画
イラストレーター
橘 隆生 (たちばな たかお)



「T-time」をスマートフォンでも、スマートフォンなどでも、「T-time」をお楽しみください。



《制作・発行》
帝塚山学園教育連携室

UD FONT



学校法人**帝塚山学園**
Tezukayama Gakuen